

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 特許出願公開

⑯ 公開特許公報 (A)

昭58—180233

⑮ Int. Cl.³
 B 01 J 20/26
 // A 41 B 13/02
 A 61 F 13/00
 C 02 F 11/14
 C 08 K 5/05
 C 08 L 101/08
 C 09 K 17/00

識別記号

CAM

庁内整理番号

7203—4G
 7149—3B
 7033—4C
 7404—4D
 7342—4J
 6911—4J
 7003—4H

⑯ 公開 昭和58年(1983)10月21日

発明の数 1
 審査請求 未請求

(全 6 頁)

⑰ 吸収剤

豊中市新千里西町2丁目9番11号

⑱ 特 願 昭57—63905

⑲ 発 明 者 入江好夫

⑳ 出 願 昭57(1982)4月19日

西宮市高座町12番10—704号

㉑ 発 明 者 榎本恒雄

㉒ 出 願 人 日本触媒化学工業株式会社

豊中市新千里北町2丁目10番4号

大阪市東区高麗橋5丁目1番地

㉓ 代 理 人 山口剛男

㉔ 発 明 者 下村忠生

明 細 書

1. 発明の名称

吸 収 剤

2. 特許請求の範囲

1. カルボキシル基を有する吸収性樹脂粉末に多価アルコールを、吸収性樹脂100重量部に対して多価アルコールを0.001～1.0重量部の割合で混合し、90℃以上の温度で乾燥して得られた吸収剤。

2. カルボキシル基を有する吸収性樹脂が、アクリル酸1～80モル%とアクリル酸アルカリ金属塩30～99モル%とからなるアクリル酸系単合体100重量部と架橋性単合体0～5重量部の混合物成分を80重量部以上の濃度で水和し、混合してゲル状含水混合物とし、次いで加熱乾燥して得られたアクリル酸アルカリ金属塩系混合物である特許請求の範囲第1項記載の吸収剤。

3. 粉末が80メッシュを通過するものの割合

3. 発明の詳細を説明

が70以上以上の割合である特許請求の範囲第1項記載の吸収剤。

本発明は吸収剤に関するものである。更に詳しくは、水性物質と接触した時に高圧に水性物質を吸収し、しかも加圧下においても低水性の大きい吸収剤に関するものである。

従来、生理綿、紙おむつあるいはその他の体液を吸収する衛生材料に、一般に紙材として吸収性樹脂を用いる慣習がなされている。

この様な吸収性樹脂としては、たとえば、デンプン—アクリロニトリルグラフト重合体の加水分解物、デンプン—アクリル酸グラフト重合体の中和物、酢酸ビニル—アクリル酸エステル共重合体のケン化物、アクリロニトリル共重合体もしくはアクリルアミド共重合体の加水分解物、またはこれらの架橋体、互相絡み合いによって得られた自己架橋ポリアクリル酸ナトリウム、ポリアクリル酸^{部分}中和物架橋体等が知られている。

ところが、これら従来の吸収性樹脂はいずれも
綿状バルブや紙に比較して、吸収速度が遅いとい
う致命的な欠陥を有している。そのため、たと
えば紙をむつに従来の吸収性樹脂を組み込んだ物
や、紙が剥離されたのちしばらくは紙をむつの吸
収力が少ないために肌に尿がふれて不快感があり、
サラツと乾いた状態になるのに時間を要している
のが現状である。そこで、吸収速度を速くするた
めに種々の試みがなされている。

たとえは、錠面積を大きくするために、錠面を下さくしたり、圓錠状にしたりあるいはリン片状にしたりする試みがなされている。ところが、一般に吸収性樹脂の粒径を小さくすると、尿に投じた場合いわゆる「マモコ」になり、即つて吸収速度が遅くなる。吸収性樹脂を圓錠状に成型すると、圓錠それぞれが一つの「マモコ」になり、即つて吸収速度が遅くなる現象がみられる。また、吸収性樹脂をリン片状にすると、吸収速度はかなり改善されるがなお不十分であり、しかもリン片状にするために工面からの制約があるので、平均

一 アクリル酸グラフト重合体の部分中和物、酢酸ビニル-アクリル酸エステル共重合体のケン化物、アクリロニトリル共重合体もしくはアクリルアミド共重合体の加水分解物、またはこれらの架橋体、ポリアクリル酸部分中和物、ポリアクリル酸部分中和物架橋体等の1種又は2種以上を用いることが出来る。また、架橋構造を有していることが望ましいが、架橋構造を有していないものでも用いることが出来る。

このような吸収性樹脂の中で、本発明で好ましいものとしては、例えば次の①～④項の各項に示した吸収性樹脂を挙げることができる。

(1) アクリル酸 1~80 モル%とアクリル酸アルカリ金口塩 50~99 モル%とからなるアクリル酸塩単量体 100 重量部と架橋性単量体 0~8 重量部との単量体成分を 20 重量%以上の濃度で水溶液共重合してゲル状含水重合体とし、次いで加硫処理して得られたアクリル酸アルカリ金口塩系重合体。

② 脂酸とよびまたは脂肪酸炭化水素誘導体中に

吸收率が小さいといふ大点がある。さらに、リン片材では必然的に小さくなるので、硝酸、硫酸に大なり吸収が必要となり、醗酵的でない。

本發明者らは、従来知られている吸収性樹脂の
有している上記の如き問題を解決すべく鋭意研究
を重ねた結果、吸収性樹脂粉末に多価アルコール
を混合し、加熱処理して得られた吸収剤が従来の吸
収性樹脂の有する問題点を解決することを見出し
て本發明を完成するに至つた。

従つて、本発明の目的は、吸収範囲が大で、
平均吸収値も大なる吸収剤を提供することにある。

即ち、平強明の吸収則はカルボテンシスを有する吸収性樹脂溶液中に多価アルコールを、吸収性樹脂 100 重量部に対して多価アルコールを 0.001 ~ 1.0 重量部の割合で混合し、80℃以上の温度で反応して得られるものである。

本発明において用いられる吸水性樹脂は、カルボキシル基を有していることが必要である。このような吸水性樹脂としては、ダンブナーポリロキトリングラフト重合体の加水分解物、ダンブ

水溶性ポリカルボン酸開始剤および必要により強極性単位の含有するアクリル酸および／またはアクリル酸アルカリ金属塩の水溶液を HLB 3 ~ 12 の界面活性剤の存在下に分散懸濁配合させて乳化吸水性樹脂。

④ ビニルエステルとエチレン系不飽和カルボン酸をたはその副産物との共重合体のケン化物。

④ デンプンおよび／＼大分子ロース、カルボ
 ケンシルを有するか立ちは加水分解によりカル
 ボケンシルを生産する。立ちは必要により
 糖鎖性立位を、本位立位中にて結合させ、必
 要によりさらに加水分解を行うことにより得ら
 れる糖鎖性立位。

④ α-カレフィンをよびビニル化合物からなる
 同より選ばれた少なくとも1個以上の単量体と
 無水マレイン酸とからなる無水マレイン酸系共
 重合体にアルカリ性物質を反応させ、必要によ
 り得られた反応生成物に多価エポキシ化合物を
 反応させて得られた吸水性樹脂。

吸収性樹脂の有するカルボキシル基の量については、カルボキシル基が存在すれば特に制限はないが、吸収性樹脂100g当たりカルボキシル基が0.01当量以上存在することが好ましい。ポリアクリル酸部分中和物を例にとれば、未中和部分の割合が1~50モル%であることが好ましい。

本発明において用いられる吸収性樹脂粉末の形状は、例えば逆相懸濁重合で得られる球状、ドラム乾燥で得られるリン片状、樹脂粒を粉砕して得られる無定形状等のいずれでもよい。吸収性樹脂粉末の粒子の大きさは吸収速度の点からは小さいものが好ましく、60メッシュを通過するものの割合が70重量%以上であることが好ましい。

60メッシュを通過するものの割合が70重量%以下であると、吸収速度が小さくなる傾向がある。

本発明において使用される多価アルコールは、水酸基を1分子当たり2個以上持つことが必要である。そのような多価アルコールの中でも特に、ジエタレングリコール、トリエタレングリコール、ポリエタレングリコール、グリセリン、ポリグリ

セリン、プロピレングリコール、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、ポリオキシプロピレン、オキシエチレンオキシプロピレンブロック共重合体、ソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、トリメチロールプロパン、ペンタエリスリトールおよびソルビトールからなる群から選ばれた1種又は2種以上が好ましい。

本発明に用いられる多価アルコールの使用量は吸収性樹脂100重量部に対して0.001~10重量部、好ましくは0.01~5重量部の範囲の割合である。この範囲内の量であれば吸収速度の大幅な吸収剤が得られる。しかし、10重量部を超える量では不経済となるばかりか、吸収性樹脂の割合が少なくなるので吸収量が少なくなる。逆に0.001重量部未満の少ない量では乾燥時に長時間を要しても吸収速度の改良が見られない。

本発明において、吸収性樹脂粉末と多価アルコールとの混合には、通常の混合機を用いることができる。例えば、V型混合機、リボン型混合機、

スクリュー型混合機、回転円板型混合機、気流型混合機等である。

吸収性樹脂粉末と多価アルコールとの混合物の乾燥には通常の乾燥機や加熱炉を用いることができる。例えば、みぞ型かくはん乾燥機、回転乾燥機、円筒型乾燥機、担和乾燥機、流動層乾燥機、気流乾燥機、赤外線乾燥機等である。乾燥温度は90℃以上、好ましくは120℃以上である。90℃未満では乾燥に長時間を要するので経済的でない。

混合及び乾燥に際して、混合機が加熱可能なものならば混合機で混合と乾燥を同時に行なってもよい。また、乾燥機が加熱可能なものならば、乾燥機で混合を行なうと同時に乾燥を行なってもよい。

このようにして得られた本発明の吸収剤は、従来公知の吸収性樹脂に比較して優れた性能を有しているものである。すなわち、本発明の吸収剤は吸収性樹脂を多価アルコールと混合・乾燥という工学的に簡単な方法によつて得られるものであ

る。そして、従来公知の吸収性樹脂に比較してマッコにきりかく大なる吸収速度を有している。また、乾燥時の粉体のケーキ化が速く、という予期し得なかつた効果も有している。

本発明の吸収剤は、紙おむつ、生理用等の吸収剤として用いることができる他に、汚物の吸着、腐敗の防止、農薬用保水剤あるいは乾燥剤等として広い用途に用いることができる。

以下、実施例により本発明を詳細に説明するが、本発明の範囲がこれらの実施例にのみ限定されるものではない。尚、例中特にことわりのない限り、%は重量%、部は重量部をそれぞれ示すものとする。

実施例 1

アクリル酸ナトリウム74.88モル%、アクリル酸28モル%及びトリメチロールプロパントリアクリレート0.08モル%からなるアクリル酸塩系単量体の43g水溶液4000部を、過硫酸アンモニウム0.9部及び亜硫酸水素ナトリウム0.2部を用いて攪拌反応液中58~80℃で調整後

し、ゲル状含水重合体を得た。このゲル状含水重合体を100℃の熱風乾燥器で乾燥後、振動式粉砕機で粉砕し、100メッシュ通過物(粉体A)及び60メッシュ通過物(粉体B)を各々分取した。

粉体A 100部にグリセリン0.3部を加えてスクリーン型混合機により混合し、得られた混合物を円筒乾燥機により乾燥を行なった。すなわち、220℃の熱部で加熱した円筒上に上記混合物を厚さ1mmになるようにのせ、スクレーパーで掻きながら18分間加熱して吸収剤(II)を得た。同様にして粉体Bを乾燥して吸収剤(III)を得た。

得られた吸収剤のそれぞれ0.2gを不織布製のタイパツグ式皿(40mm×180mm)に均一に入れ、0.8gの食塩水に浸漬し、30秒後および10分後の重量を測定した。タイパツグ式皿のみの吸収量をブランクとし、次式に従つて吸収剤の吸水倍率を算出した。

$$\text{吸水倍率} = \frac{\text{吸収後の重量(g)} - \text{ブランク(g)}}{\text{粉体の重量(g)}}$$

実施例 3

トリメロコシデンブレン50部、水200部およびメタノール1000部を攪拌機、密閉吹込み管および温度計を備え付けた反応容器に仕込み、真空脱気下60℃で1時間攪拌したのち80℃に加熱し、25部のアクリル酸、75部のアクリル酸ソーダ、0.3部のメチレンビスアクリルアミド、重合触媒として0.1部の過硫酸アンモニウムおよび促進剤として0.1部の亜硫酸水素ナトリウムを添加し、60℃で4時間反応せしめたところ、白色懸濁液が得られた。

この白色懸濁液を伊達して得られた粉体を水-メタノール混合溶液(水対メタノールは重量比で2:10)で洗浄し、60℃、3時間減圧乾燥したのち粉砕し、さらに100メッシュ金網でふるい分けして100メッシュ通過物を得た(粉体C)。

粉体C 100部に、グリセリン1部を加え、円筒型混合機により混合し、得られた混合物を流動層乾燥機中で200℃の熱風により10分間乾燥を行なつて吸収剤(IV)を得た。吸収剤(IV)につ

いて、マモコ生成の抑制、水で湿らせたいのちに少許の吸収剤をおとした時の粒子を収容するのとにより行なつた。

表1表に結果を示すが、粉体AおよびBに比べ吸収剤(II)および(III)は吸収速度が著しく改善されている。

実施例 2

実施例1で得た粉体Aを用いて実施例1におけるグリセリンを以下に記す多価アルコールにかきかえた以外は実施例1と同様にして吸収剤(III)～(VIII)を得た。すなわち、ポリエチレングリコール200(吸収剤(III))、ポリエチレングリコール400(吸収剤(IV))、ポリエチレングリコール600(吸収剤(V))、トリエタノールアミン(吸収剤(VI))、ソルビタンモノラウレート(吸収剤(VII))、ポリオキシエチレンソルビタンモノステアレート(吸収剤(VIII))、トリメタロールプロパン(吸収剤(IX))、ソルビトール(吸収剤(X))をそれぞれ用いた。

吸収剤(III)～(X)について、実施例1と同様に評価した。結果を表1表に示す。

いて実施例1と同様に評価した。結果を表1表に示す。

実施例 4

酢酸ビニル80部とアクリル酸メタル60部からなる混合物に重合開始剤としてベンゾイルパーオキサイド0.5部を加えこれを部分ケン化ポリビニルアルコール9部と食塩10部とを含む水300部中に分散せしめ、60℃で8時間加熱重合せしめたのち、伊達、乾燥して重合体を得た。得られた重合体をケン化、洗滌、乾燥したものを粉砕、分選して、60メッシュを通過した粉体Dを得た。

粉体D 100部にトリメタロールプロパン1部を加え、ジャケットを熱部で220℃に加熱したリボンブレンダーに投入し、18分間混合することにより、混合および乾燥を行ない吸収剤(IX)を得た。吸収剤(IX)について実施例1と同様に評価した。結果を表1表に示す。

実施例 5

反応器にα-ヘキサン300部をとり、ソルビ

タンモノステアレート0.7部を加えた。次いでこの中にアクリル酸3.0部を水4.0部に溶解したのち12.8部のカセイソーダで中和し、更に過硫酸カリウム0.08部を溶解したモノマー水溶液を加えて分散させ、攪拌風況下65℃に保つて8時間混合を行なった。混合終了後、減圧乾燥して粉体Eを得た。

粉体E 100部に、ポリエチレングリコール300を1部加え、V型混合機により混合を行なった。粉られた混合物をベルトコンベヤーにうつくのを、赤外線乾燥機中を通過させて乾燥を行ない、吸収剤④を得た。平均加熱時間は4分間で、乾燥機出口での材料温度は280℃であつた。

吸収剤④について実施例1と同様に評価した。結果を表1表に示す。

実施例 8

イソブチレン-無水マレイン重合体18.4部、カセイソーダ8.4部および水9.9部を混合し、90℃で2時間加熱撹拌して均一な水溶液を調製した。次いでこの水溶液にグリセリン2.9

シジルエーテル2.5部を~~加~~し、混合液バットへ流し込み、110℃の乾燥機中で無反応を~~か~~とさしめ、乾燥後粉砕、分級して60メッシュパスの粉体Fを得た。

220℃の乾燥機により加熱されたパドルドライヤーに粉体Fおよびポリエチレングリコール400を、粉体F 100部に対してポリエチレングリコール400を0.8部の割合でそれぞれ定量的に供給して混合および乾燥を行ない、吸収剤④を得た。パドルドライヤー内の平均滞留時間は10分であつた。

吸収剤④について実施例1と同様に評価した。結果を表1表に示す。

比較例 1

実施例1において、アクリル酸重合体水溶液にグリセリン2部を加える他は実施例1と同様に混合、乾燥、粉砕を行なった。粉られた粉体の100メッシュ通過物ととり(粉体G)ステンレス鋼皿にのせ、200℃乾燥機中で18分間乾燥して比較吸収剤③とした。

表 1

		吸 収 倍 率		マッコ生 吸収率(%)
		30秒後	10分後	
実施例 1	粉体 A	4.1	6.0	×
	粉体 B	8.1	8.2	×
	吸収剤 ①	9.0	9.7	○
	吸収剤 ②	8.8	7.0	○
実施例 2	吸収剤 ③	8.0	7.0	○
	吸収剤 ④	8.1	7.1	○
	吸収剤 ⑤	8.8	8.8	○
	吸収剤 ⑥	8.0	7.0	○
	吸収剤 ⑦	8.9	7.0	○
	吸収剤 ⑧	8.8	7.8	○
	吸収剤 ⑨	8.0	7.0	○
	吸収剤 ⑩	8.8	7.2	○
実施例 3	粉体 C	2.8	2.8	×
	吸収剤 ⑪	4.0	4.2	○
実施例 4	粉体 D	2.8	4.8	×
	吸収剤 ⑫	4.0	8.2	○
実施例 5	粉体 E	2.5	3.8	×
	吸収剤 ⑬	4.8	8.0	○
実施例 6	粉体 F	2.3	3.3	×
	吸収剤 ⑭	4.0	8.2	○
比較例 1	粉体 G	3.3	4.5	×
	比較吸収剤 ③	3.5	4.0	△
比較例 2	粉体 H	3.8	5.8	×
	比較吸収剤 ④	4.2	8.4	△

(注) ○: マッコがでない。
△: マッコがなりにくい。
×: マッコがでる。

手 続 正 書

昭和58年3月28日

才1投に示した結果からも、かなように、本発明の吸収剤はママコにらず、且つ大きな吸収速度を有している。比較例1および2におけるように、多価アルコールを単量体水溶液に加えたりあるいは粉体粒子に比べて大きなゲル状含水重合体に加えても、逆効果になつたり効果が小さかつたりする。

特許出願人 日本触媒化学工業株式会社

代 理 人 山 口 剛 男 

特許庁長官 若 杉 和 夫 殿

1. 事件の表示

昭和57年特許願第63905号

2. 発明の名称

吸 収 剤

3. 補正をする者

特許出願人

大阪府大阪市東区高麗橋5丁目1番地

(462) 日本触媒化学工業株式会社

代表取締役 石 川 三 郎



4. 代 理 人

〒-100

東京都千代田区内幸町1丁目2番2号

日本触媒化学工業株式会社 東京支社内

電話 03-502-1661

 山 口 剛 男 

5. 補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の項

6. 補正の内容

(1) 第7頁第1行

「…… カルボキシ基……」を

「…… カルボキシル基……」と補正する。

(2) 第18頁第1表中、実施例1の吸収剤(1)の行、

吸収倍率30秒後の値「50」を「62」と

補正する。

(3) 第18頁第1表中、実施例1の吸収剤(2)の行、

吸収倍率30秒後の値「62」を「50」と

補正する。